

平成29年度「高校生のための学びの基礎診断」に関する試行調査・研究事業の実施状況について

1. 実施期間（受検期間）

平成30年1月10日（水）～2月5日（月）の間（各対象校と受託事業者にて調整）

2. 実施対象

平成29年度「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」
受託団体が指定した実践研究校

（ 継続校：10道府県12校 （1学年・2学年）約5,200人
新規校：6県7校・1学校法人1校 （1学年・2学年）約2,700人 ）

3. 委託事業者

調査対象	事業	本体調査		アンケート調査（共通）
		教科等	受託事業者	受託事業者
継続団体	A	国語・数学・英語	(株)ベネッセコーポレーション	(株)ベネッセコーポレーション
新規団体	B	国語	(株)ベネッセコーポレーション	
	C	数学	(株)教育測定研究所	
	D	英語	公益財団法人日本英語検定協会	
	E	国語・数学・英語 (CBT調査)	(株)内田洋行	

※原則として、実践研究校の第1・第2学年の全学級を対象とする。

ただし、事業EのCBT調査については、第1・第2学年の各1学級を対象とする。

※各事業の受託事業者は、「アンケート調査（共通）」（一部中間集計は8ページ参照）とは別に、受託した本体調査に関する「事後アンケート調査」を実施する。

4. 今後のスケジュール

○受託事業者において、本体調査の受検結果について採点・分析のうえ、実施校における指導改善に資するデータ（学校向け、生徒個人向け等）納期（平成30年3月23日）

○「アンケート調査（共通）」集計データ納期（平成30年2月9日まで）

○「事後アンケート調査」集計データ納期（平成30年3月23日）

平成29年度試行調査実施団体・実践研究校

【継続団体】

整理番号	委託団体	実践研究校	学 科	対象生徒数			対象学級数			試行調査実施日程	CBT実施方法	
				1年	2年	合計	1年	2年	合計		ベネッセ(英語)	
1	北海道教育委員会	札幌英藍高等学校	普通科	320	316	636	8	8	16	1/26 ～1/29	4技能すべてタブレット貸与	
2	山形県教育委員会	庄内総合高等学校	総合学科	96	72	168	3	2	5	1/25 ～1/30	4技能すべてタブレット貸与	
3	石川県教育委員会	松任高等学校	普通科、総合学科	185	175	360	5	5	10	1/15 ～1/25	4技能すべてタブレット貸与	
4	静岡県教育委員会	熱海高等学校	普通科	109	72	181	3	3	6	1/10 ～1/16	4技能すべてタブレット貸与	
5	滋賀県教育委員会	玉川高等学校	普通科	321	315	636	8	8	16	1/25	4技能すべてタブレット貸与	
6	大阪府教育委員会	大阪府教育センター附属高等学校	普通科	281	278	559	8	7	15	1/15 ～1/25	4技能すべてタブレット貸与	
7	兵庫県教育委員会	柏原高等学校	普通科	279	270	549	7	7	14	1/22 ～1/25	4技能すべてタブレット貸与	
		姫路南高等学校	普通科	240	239	479	6	6	12	1/25	4技能すべてタブレット貸与	
8	鳥根県教育委員会	出雲農林高校	専門学科(植物科学科、環境科学科、食品科学科、動物科学科)	160	161	321	4	4	8	1/29	4技能すべてタブレット貸与	
9	岡山県教育委員会	林野高等学校	普通科	135	134	269	4	4	8	1/23 ～1/26	4技能すべてタブレット貸与	
		岡山工業高等学校	専門学科(機械科、土木科、化学工学科、デザイン科、建築科、情報技術科、電気科)	322	319	641	8	8	16	1/10 ～1/26	4技能すべてタブレット貸与	
10	福岡県教育委員会	朝倉東高等学校	普通科・専門学科(総合ビジネス、ビジネス情報科)	200	197	397	5	5	10	1/12 ～1/15	4技能すべてタブレット貸与	
合計				2,648	2,548	5,196	69	67	136			

【新規団体】

整理番号	委託団体	実践研究校	学 科	対象生徒数			対象学級数			試行調査実施日程	CBT実施方法	
				1年	2年	合計	1年	2年	合計		英語検定協会(スピーキング)	内田洋行(国・数・英)
1	千葉県教育委員会	船橋法典高等学校	普通科	240	230	470	8	7	15	1/12 ～1/30	校内PC/PC貸与・USB方式	校内PC・USB方式
2	山梨県教育委員会	市川高等学校	普通科、英語科	150	151	301	4	4	8	1/15 ～1/30	校内PC/PC貸与・USB方式	校内PC・USB方式
		富士北稜高等学校	総合学科	260	254	514	7	7	14	1/26 ～1/30	校内PC・USB方式	校内PC・USB方式
3	岐阜県教育委員会	海津明誠高等学校	普通科、情報処理科、生活福祉科	189	182	371	5	5	10	1/10 ～1/12	校内PC/PC貸与・USB方式	校内PC・USB方式
4	三重県教育委員会	菟野高等学校	普通科	160	158	318	5	4	9	1/11 ～1/26	校内PC/PC貸与・USB方式	校内PC・USB方式
5	奈良県教育委員会	榛生昇陽高等学校	普通科、福祉科	180	187	367	5	5	10	1/26 ～1/31	PC貸与・USB方式	校内PC・USB方式
6	高知県教育委員会	高知丸の内高等学校	普通科音楽科	167	164	331	5	6	11	1/23 ～1/25	校内PC/PC貸与・USB方式	校内PC・USB方式
7	学校法人文理開成学園	文理開成高等学校	普通科(大学進学コース、普通コース)	42	34	76	2	2	4	1/30、2/5	PC貸与・USB方式	PC貸与・USB方式
合計				1,388	1,360	2,748	41	40	81			

※内田洋行のCBTは各学年1クラスを対象とする。

平成29年度試行調査の実施状況等に関する訪問調査概要

平成29年度の試行調査の実施にあたり、文部科学省高校教育改革PTから担当官が実践研究校を訪問し、試行調査の実施状況を視察するとともに、基礎学力の定着に向けた同校及び設置者の取組等について聞き取りをおこなった。

1. 訪問校等

団体名	実践研究校	区分	訪問日
千葉県教育委員会	船橋法典高等学校	新規	平成30年1月12日
山梨県教育委員会	市川高等学校	新規	平成30年1月23日
岐阜県教育委員会	海津明誠高等学校	新規	平成30年1月12日
三重県教育委員会	菰野高等学校	新規	平成30年1月11日
大阪府教育委員会	大阪府教育センター附属高等学校	継続	平成30年1月25日
奈良県教育委員会	榛生昇陽高等学校	新規	平成30年1月30日
高知県教育委員会	高知丸の内高等学校	新規	平成30年1月25日
学校法人文理開成学園	文理開成高等学校	新規	平成30年1月30日

2. 試行調査の実施状況

(1) 受検の様子(過日実施分の様子を含む)

(全般)

- PBT、CBT共にテスト実施そのものは混乱が生じることはなかった。
- 概ね真剣に受検している様子であったが、学校やクラスによっては1～3割程度、途中で断念してしまう生徒が見られた。普段より、受検態度がきちんとしていた学校もあった。
- 生徒間で学力差が大きな状態で入学してくるので、試験に取り組める生徒、そうでない生徒の差が大きい(特に数・英)。問題を読む前に適当に解答してしまう生徒も。

(英語スピーキング(CBT方式))

- 発話できている生徒も見られる一方で、ほとんど発話していない生徒も見られた。
- 他の受検者と発話のタイミングがずれると一人で発話することになり、恥ずかしがる生徒がいた。
- 質問内容が理解できていないのか、無回答(無反応)の生徒も一部見られた。
- 次の画面に進む際に所定のアイコンではなく、ウインドウ右上の「×」をクリックしたことによりテストシステムが中断してしてしまうケースがあった。

(CBT方式)

- 生徒から、PBTとCBTではPBTの方が慣れていてやりやすいとの反応であった。
- 生徒から、CBTは目がとても疲れたとの感想があった。
- PCで受検することが「わくわくして嬉しかった」という生徒がいた。ペーパーテストでは問題を開いても興味を失って閉じてしまう生徒でも、CBTは問題が次々と出てくるからなのか、興味を持って取り組む者がいた。
- CBTに当たって、本校の生徒はPC操作には慣れているので問題ない。キーボードが使えない生徒は

いないが、入力が早い生徒と遅い生徒で解答時間に差がでてしまう面がある。

- 本校の生徒はキーボードを打てないし、家庭にPCがないというところも多い。入力ですみずくと、国数英以外の能力になってしまう。情報の授業でも、マウスの使い方から教えているのが実態。
- 最近ではスマホの影響でキーボードを操作することに慣れていない生徒が増えた(昔はPCでゲームをしている生徒もいたが、最近ではPCを使わずスマホを使う生徒がほとんど)。

(2)事前準備・実施面

(全般)

- 保護者・生徒向けに説明資料を作成し、調査目的等の説明を行った。思考力等を重視する新傾向の問題に触れる機会になること、生徒の成績評価には反映させない旨等の説明を行った。
- 昨年度より資料到着が早かったため、調査の運営準備をスムーズに進めることができた(継続校)。
- 国語・数学・英語、CBT調査で受託事業者が異なるので、それぞれとやりとりするのに労力がかかった。
- 事業者ごとに実施方法や実施マニュアルが異なっていた。様式、IDの振り方、試験時間、答案取りまとめ、問題回収チェック方法など細部に違いが多く、確認や取扱いに手間がかかるため、運営負荷が大変大きかった。マニュアルはもっとシンプルで統一されているのが望ましい。
- 教科によって実施方法が異なるので、学校独自に教科ごとの注意点をまとめて監督の先生方に配布した。
- 実施マニュアルを含めて資料到着が実施の直前であった教科もあり、確認がままならなかった。資料がない中での校内における周知は困難である。生徒から質問されても答えられないこともあった。
- 事業者によって監督者の動き方が異なる。例えば、リスニングCDの音声を流すと、その中に受検時の説明が入っているものと入っていないものがある。説明が入っていない場合は監督者が冒頭にリスニング時の注意事項などを説明しなければならないが、監督者が考えて動く余地をなくすような実施方法の方が、教員の負担を軽減できるので助かる。
- 事業者からは、対面での事前説明の機会は1度だけと言われたが、一度では質問しきれない。
- 表記のプレやマニュアルとチェックシートとのズレなど、全体的に内容が雑な箇所が見受けられた。

(英語)

- リスニングに際して、校内一斉放送ができなかったため、CD再生機器を10数台かき集めて実施したが、新旧機種があり型が異なるので、音量調整などは試験監督の裁量に任せることとなった。機器は手配していただけると有難い。
- 英語(RLW)はリスニングの時間などトータル50分になるようにきっちり時間が設定されていたが、チャイムの時間を含むかどうかなどで数十秒変わってしまうので、どの時点からリスニングのCD音声を流すのかなど、ぴったり1コマに収まるようなやり方を事前に決めておいてほしかった。
- PC教室が1つしかなく、2クラスまとめてスピーキングテストを実施するために、視聴覚室にノートパソコンを設置して、4人の教員で監督することとした。
- スピーキングテストは、(今回の調査では、当日、事業者から複数名のサポートがあったが、)事業者スタッフがいないと、特にシステムトラブルが起きたときに大変だと思う。教員側が不安に感じるだろう。
- スピーキングテストについては、タブレットを活用した授業をほとんど行っていないので、対応できるか不安がある。隣の声が聞こえてしまうのは仕方のないものと思っている。広い部屋を用意できるわけではないので限界がある。

(CBT)

- 試行調査に先立って特別に情報教育の授業を行った。
- 受託事業者による事前調査で高速通信ができることを確認した上で、「より安定的に実施できるから」という理由で、わざわざUSBが使われたが、試行調査であれば、オンライン方式を試してもよかったのではないか。
- CBTのためのPCの設定にあたっては、事前に事業者に来てもらいよくしてもらった。本校は情報担当教員がPC等に精通していたので良かったが、そうではない学校では大変なのではないか。
- 学校の電気容量が不足しているようで、事前に用意していたタブレットが適切に作動しなかったため、直前に事業者からPC等を持ち込んでもらって対応した。
- 今後、CBT方式にするならアダプティブまで持って行ってほしい。中途半端なCBTではコストだけが嵩んでしまう。
- CBTはオンライン方式が理想だが、学校によってネットワークの帯域などの環境が異なるという問題もある。USB方式は、USBの回収・返送の手間や紛失のリスクがある。

(その他)

- 3学年一斉実施の方が運用しやすい。今回は1、2年生のみが対象で、試験50分、アンケート10分と1コマの枠を超えてしまうので、チャイムを鳴らすタイミングを通常授業の場合と変えたが、3年生は通常授業をしているので、3年生は授業とチャイムのタイミングがあわなくなってしまった。
- 受託事業者が、一部(6名)の受検者に各10分のインタビューを行ったが、その間の授業などをどうすれば良いのかといったことにも配慮してほしい。

(3)問題内容等

- 英語の設問文は日本語でなければ、本校の生徒の場合は入り口にも立てない。
- 生徒に英語スピーキングテストを実施すると言った時に、それほど拒否反応はなかった。中学校でスピーキング試験を受けたことのある生徒もいた。
- 英語スピーキングテストは吹込み方式だが、本校のような学力層の生徒だと、わからなければそこで終わってしまうが、対面方式だと先生が答えるまで待っていていたりするため、何とか答えようとすることもあるので、対面方式の方がよいのかもしれない。
- 本校の生徒がどこまで思考力・判断力・表現力を問う問題に対応できるかは非常に不安。
- CBTはPBTIに比べて問題の全体像をつかむことが難しい。端末を操作して全問題を確認できる場合もあるが、英語では4技能あり戻ることができない。

(4)調査日程

- 日程調整の幅を柔軟にしてほしい。
- (3年生が不在となる)2月実施の方がよい。あるいは4～5月の実施であれば、3年生も含めて全学年で特別時間割にできるのでやりやすい。
- 校内調整が多く、2～3月は入試と重なるので大変。やるのであれば、この時期(1月)がギリギリ。
- 11月に1月中に実施との連絡があったが、そこからテストの日程調整に苦労した。

3. 実践研究校の取組や課題

(1) 授業改善への取組

- アクティブラーニングなど指導改善に向けた取組を進めている。アクティブラーニングではグループワークや KJ 法などにも取り組んでいる。
- 教科横断型の総合学習の時間を中心に、グループで調べたテーマについて様々な手法で発表するなど、アクティブラーニングを実践している。生徒自ら積極的に学習することによって「発見」「探究」「感動」「自信」といった好循環のサイクルを回して生徒の学習意欲の喚起を図っていききたい。
- 選択授業や理科社会などの教科については、生徒自らプリント資料の作成を行うなど、アクティブラーニングを少しずつ実行できている。
- 公開授業を年2回(前期・後期)実施する。教員が3～4名のユニットを編成し、ユニット内で相互に授業を見学し検討を行う。ユニット内の担当教科はあえて異なる教科とすることで気付きを得る。
- 調査研究事業とは別に、理科、社会など意欲的な教員もおり、若手を中心に任意の組織を設けて授業改善に取り組んでいる。
- 本校に在籍している特別支援学校や中学校で指導経験のある教員は特に指導が丁寧で掲示物への気の配り方も違う。他の教員も授業の際に興味を引くように文字だけでなく写真や絵などの教材を用いながら授業に関心をもってもらう工夫している。
- 本校における基礎学力の定義をどこに置くのか、ということ、本校のスタンダードを構築し共有する取組を進めている。従来からシラバスを作成していたが、生徒も教員も活用が不十分で、画餅のような状態であった。1年間授業を受けたら「～ができるようになる」を目指すこととしている。
- プロジェクターやタブレットを使った授業は、生徒も関心をもって聞いたり主体的に授業に参加したりするので、このような授業を進めていきたいと考えているが、全ての教員の授業について指導改善ができていくわけではなく、例えば、生徒の関心の高いICT機器を活用した授業を行いたいと考えても、機器の台数の問題や設置に時間を要するといった課題がある。
- タブレット端末を導入し、ICTを活用した民間の授業・学習支援サービスを利用している。同サービスは民間テストの結果に基づき、生徒個別に設定された学習課題が閲覧できる機能を有しているが、それをどう使えるかを一人ひとりの生徒に理解させる必要があるが、タブレットへの慣れが必要であり、開始そのものに時間を要している。また、11月下旬から導入したため、成果はまだこれからの段階。
- 英語の3分間スピーチ、近隣の文化遺産を英語で案内するなどの取組を実施。

(2) 民間試験・教材の活用

- 基礎学力を把握するための民間の試験受検させているほか、希望者が各種検定を受験している。丁寧な事前教材が来るので、生徒にとっても分かりやすく好評。
- 朝学習で民間の基礎学力の定着(学び直し)を目的とした教材(10分間学習)や検定対策等を実施。遅刻の減少のほか、生徒はまずは取り組むのだという姿勢は見せてくれている印象。プライドの面で抵抗があるかと思ったが、本校の生徒はそうでもなく、生徒同士で助け合っている。
- 民間のテスト及び付属の生活習慣・家庭学習習慣アンケート結果を基に保護者面談(学期ごとに開催)の参考資料として活用している。
- 学習意欲の喚起の方策として、テストの順位を校内に掲示することとしたところ、これまでなかなか注目される機会がないこともあり、生徒は素直に喜んでいる。
- 民間の学び直し教材を用いた学習を1学期間フルに充てたところ、(高校の学習を行わずに)簡単なことばかりやっているということで動機づけにならなかったという声がある一方で、コツコツと取り組んだ

生徒は、数字にすぐ現れてくるかは別として、成果があったとの評価もある。生徒は、中学校を卒業した高校生になったというプライドは持っているが、そこに必要な力を十分備えているということのギャップを(プライドを損なわずに)どう理解させられるかが課題である。

(3)学習支援への取組

- 学力に課題のある1年生を対象として、支援員(主に教職を目指す大学生)による放課後支援授業(1日当たり1時間)を実施している。
- 教職を目指す大学院生などが特別指導員として措置され、授業の中でフォロー役として入ってもらったり、放課後に個別対応してもらったりしている。
- 学力に課題がある生徒のみでなく、学力が高い生徒に対するサポートとして、夏休みに特別授業を実施している。
- 外国人生徒が多数在籍する学校において、日本語習得への支援のため、通常授業からの取り出し日本語講座(通常1日1コマ)の実施等。

(4)「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための研究開発事業」に取り組んでの感想等

- まずは、生徒の学習への意欲や生活態度を改善するところから始める必要がある。学力の向上はまずそこをクリアしつつ授業改善を行って対策をしている。
- 生徒の変容をどのように測るのかということは悩みであり来年度の課題である。テストの成績は伸びているという事実はあるが、どの取組がどのように効いた、しなかったらどうなったといったことの把握は難しい。
- 取組初年度ということもあり、とにかく「やりきる」ことのみで急いだり満足したりということがなかったかという反省が必要と考える。やり切ったという達成感を得ることも大事なステップだが、もっと教材を使って発展させる授業をしたり、じっくりと調べさせる時間を取り入れたりすることも必要かもしれない。
- 選択授業などについては、取組みの成果もあり主体的にできる生徒も増えてきたが、必修科目はまだ微妙な状況。
- 総じて、今年度は各種調査や準備の段階まで。来年度から本格的に実行していく(新規校)。
- S-P表分析について、専門家から分析手法として研修を受け、定期考査の結果を分析したところだが、今後恒常的な取組とするまでには至っていない(新規校)。

(5)県独自の学力調査とその活用

- 高知県において、年2回(4、9月)「学力定着把握検査」を実施し、生徒の成績、生活面及び学習状況の現状把握や各学校での授業改善等に活用している。

具体的な流れは次のとおり。

- ①4、9月の各受検結果をもとに各学校で分析のうえ「学力向上プラン」を作成し、県教委に提出する。
- ②学力向上プランをもとに、県教委指導主事等が学校を訪問して共有・改善策の検討
- ③更に、2月には、年度の取組の成果と課題、次年度に向けた目標・取組の改善点を作成する。
- ④各学校の取組みの成果と課題等について、研究協議会で情報共有

平成29年度試行調査にかかるアンケートの中間集計（一部）について

平成29年度試行調査において実践研究校（20校）を対象に実施したアンケート調査（教師用、生徒用）のうち、現時点で集計が完了した8校（継続校4校、新規校4校）の中間集計（一部）は以下のとおりである。

なお、本資料は、速報のために一部の実践研究校のデータを集計のうえ、アンケート設問の一例を示したものであり、全体の傾向を示すものではない。

（参考）

○中間集計数

継続校… 4校 生徒約 1,100人

新規校… 4校 生徒約 1,400人

○アンケート設問数

教師用 310（内訳：共通 40、国語総合 85、数学Ⅰ 115、コミュニケーション英語Ⅰ 70）

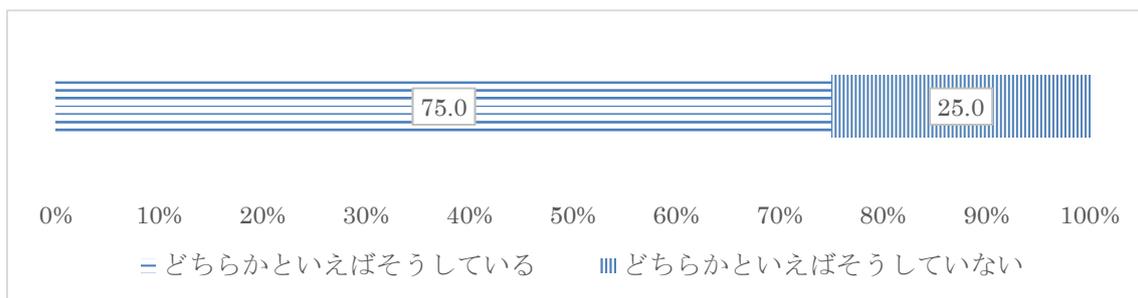
生徒用 221（内訳：共通 35、国語総合 59、数学Ⅰ 80、コミュニケーション英語Ⅰ 47）

○平成29年度の状況についての調査であり、平成30年1月時点での回答である。

<教師用>

【共通】

Q1. 関連する教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにしていますか。（多くの学級で該当するものを1つ選んでください。）

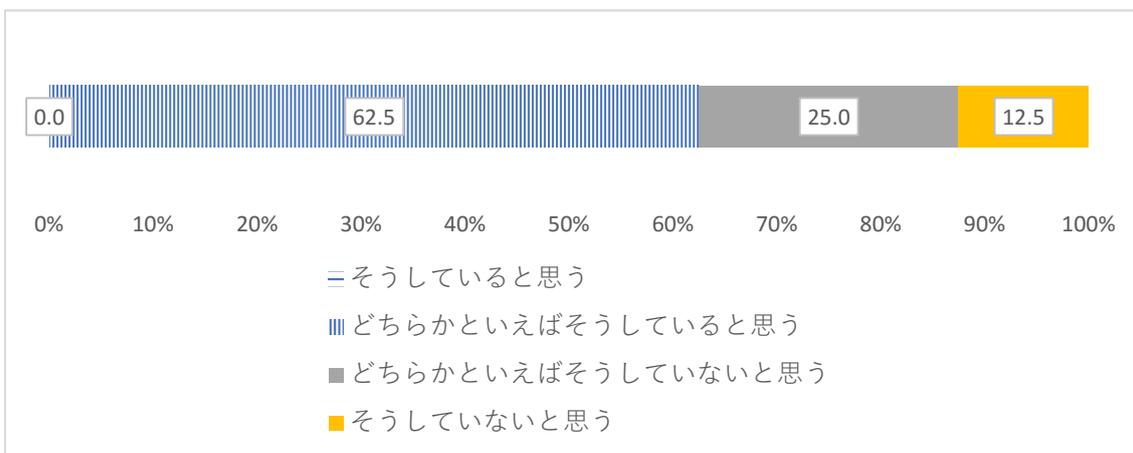


Q2. 学習指導要領を踏まえた指導方法や教材づくり等についての研究・研修はどのような方法で行っていますか。（複数回答可）

(%)

教育委員会や教育センターが主催する研修を受ける	100.0
他校の教員の授業を参観したり，研究会に参加したりする	100.0
校内で他の教員の授業を参観する	87.5
校内で自身が研究授業を行う	62.5
校外の民間団体等の研修に参加する	50.0
書籍等で研究する	50.0
教師用指導書等で研究する	50.0
校外の教員同士の自主的な研修に参加する	25.0
行っていない	0.0

Q 3. 多くの学級の生徒は、問題や課題を解決するとき、どのようにしていると思いますか。
 次の設問のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。
 (分からないときでもあきらめずに考えようとしている)



Q 4. あなたの学校では、日ごろ、どのような授業や学習指導を心掛けていますか。特に力を入れているものを3つまで選んでください。

(%)

生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業	50.0
本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	50.0
小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に生徒に学習状況の評価を知らせる授業	50.0
繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分に取ったりする授業	37.5
教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	25.0
習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業	25.0
コンピュータやプロジェクタ、電子黒板などを活用する授業	25.0
教科書に書いてあることを丁寧に教える授業	12.5
振り返りシートなどにより、生徒自らに学習状況の評価させる授業	12.5
その他	12.5

Q 5. 生徒の思考力や判断力、表現力といった力をどのような方法で評価していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください。

(%)

単元(題材)の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート(又はそれに相当する実技課題)	62.5
学期の中間や期末などに実施する定期テスト(又はそれに相当する実技課題)	62.5
授業における教員の発問に対する反応等の観察(又は授業において課されている実技課題への取り組み状況等の観察)	62.5
生徒が記述した振り返りシートや生徒に対するアンケート	50.0

生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする課題	25.0
生徒が記述したノート	25.0
挙手や発言の回数、宿題提出、忘れ物の頻度など	12.5
その他の方法	0.0
特段のことは行っていない	0.0

Q 6. 生徒の関心・意欲・態度をどのような方法で評価していますか。実際によく用いているものを3つまで選んでください。

(%)

授業における教員の発問に対する反応等の観察（又は授業において課されている実技課題への取り組み状況等の観察）	75.0
挙手や発言の回数、宿題提出、忘れ物の頻度など	62.5
生徒が記述したノート	50.0
単元（題材）の区切りなどで実施する、教員自作のテストやワークシート（又はそれに相当する実技課題）	37.5
生徒が記述した振り返りシートや生徒に対するアンケート	37.5
生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする課題	25.0
学期の中間や期末などに実施する定期テスト（又はそれに相当する実技課題）	12.5
その他の方法	0.0
特段のことは行っていない	0.0

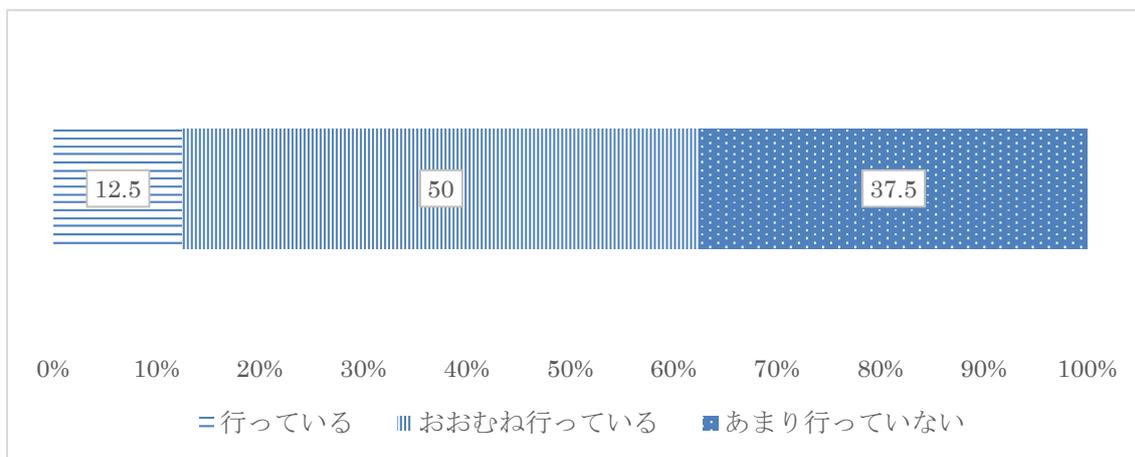
Q 7. 観点別学習状況の評価について、あなたの学校では、どのように実施していますか。あてはまるものを全て選んでください。

(%)

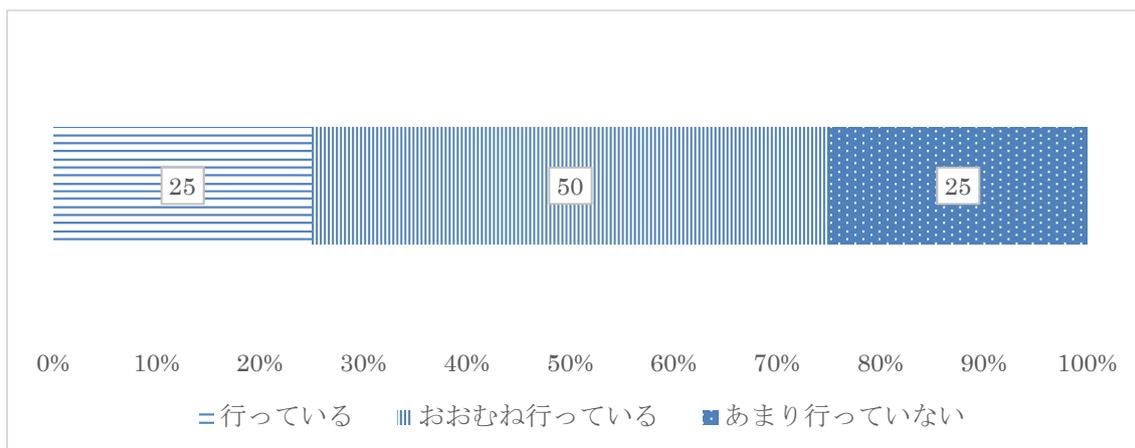
定期テストなどに加え、平常点を加味して、評価を行っている	87.5
指導計画やシラバスに観点別の評価規準などを設けている	87.5
定期テストなどにおいて、観点に配慮した問題を課している	75.0
通知表に観点別学習状況を記録している	12.5
指導要録に観点別学習状況を記録している	0.0
その他	0.0

【国語総合】

Q 8. 「話すこと・聞くこと」の指導で、話すこと・聞くことを主とする指導に 15～25 単位時間程度（標準単位 4 単位の場合）を配当して授業を行っていますか。

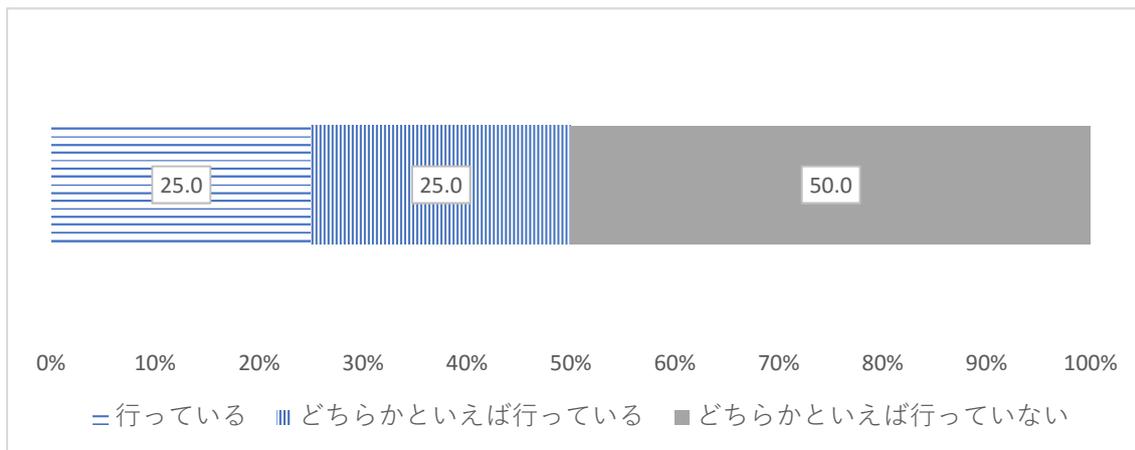


Q 9. 「書くこと」の指導で、書くことを主とする指導に 30～40 単位時間程度（標準単位 4 単位の場合）を配当して授業を行っていますか。

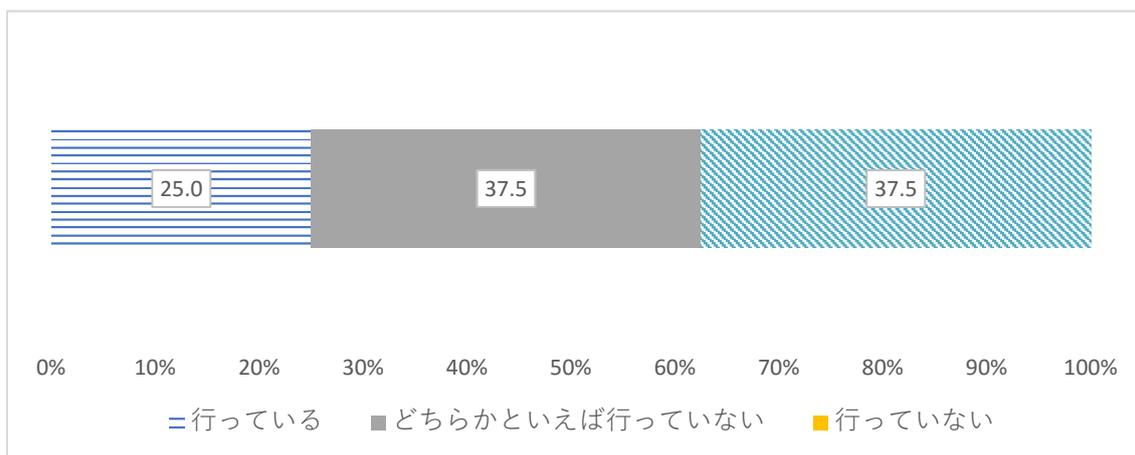


【数学 I】

Q 1 0. 日常生活や社会の場面に数学を利用する活動を取り入れた授業を行っていますか。

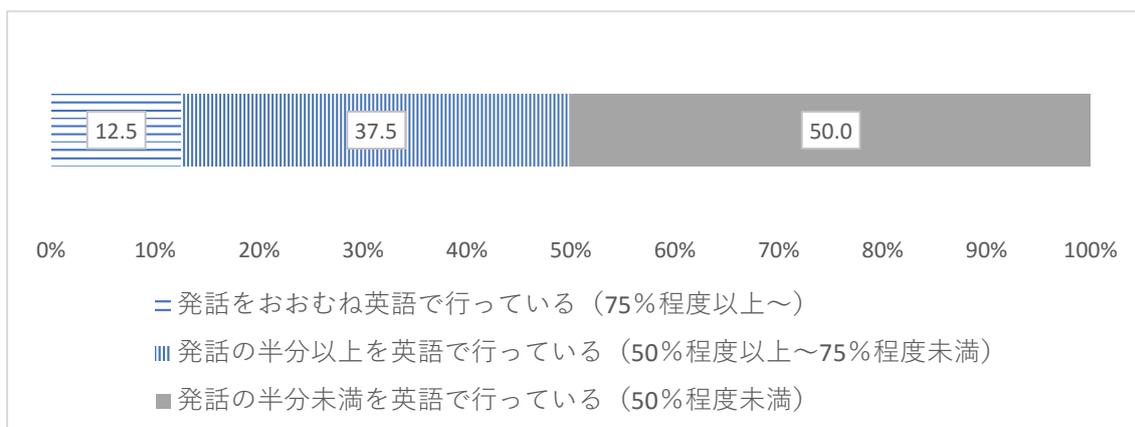


Q 1 1. コンピュータや電子黒板など I C T を活用した授業を行っていますか。

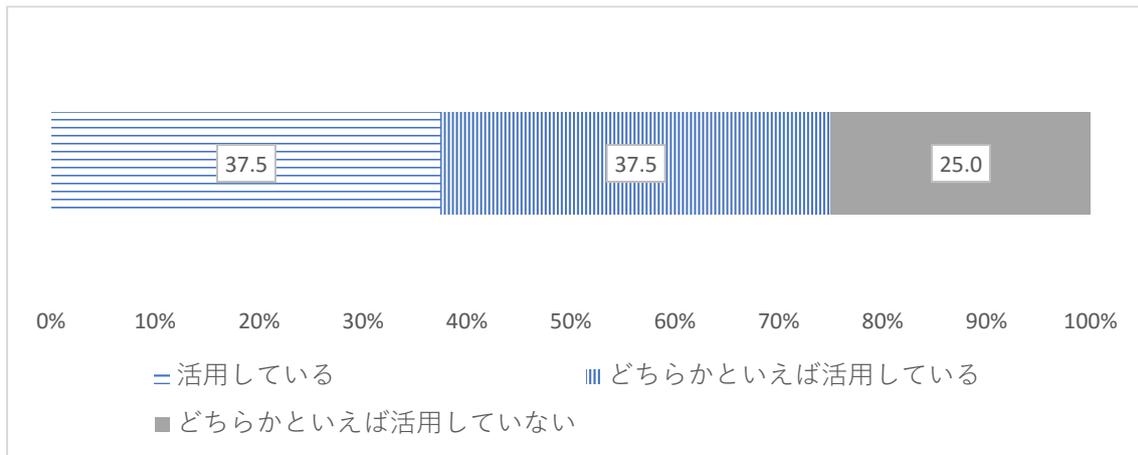


【コミュニケーション英語 I】

Q 1 2. 授業でどの程度英語を使用していますか。



Q 1 3. 生徒の英語力を把握するために、英語の資格・検定試験を活用していますか



<生徒用>

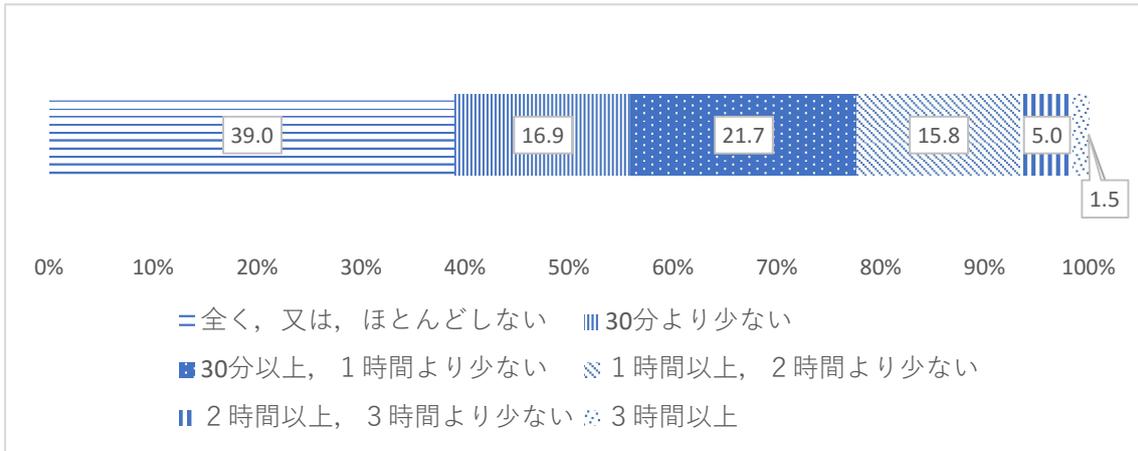
【共通】

Q 1. 普段何のために、勉強をしていますか。当てはまるものを全て選んでください。

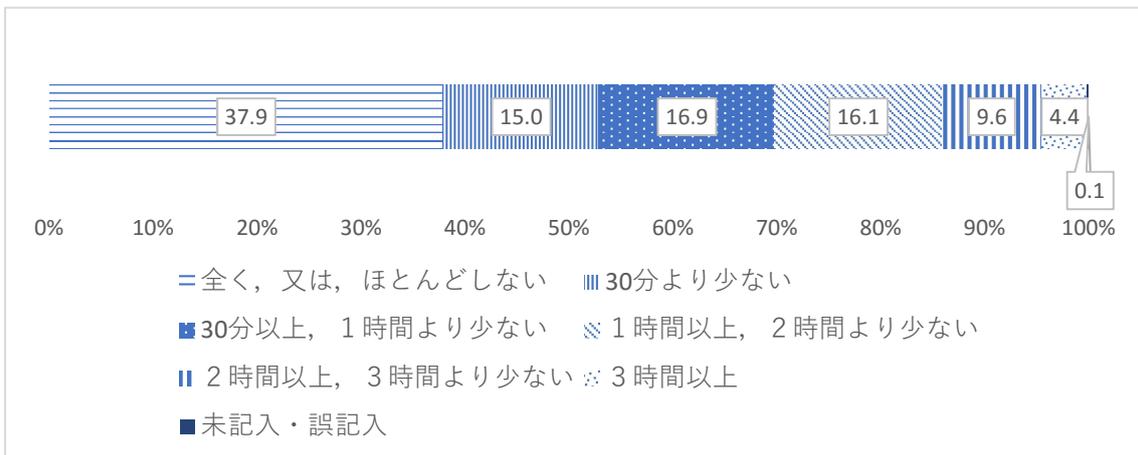
(%)

将来なりたい職業に就くのに役立つから	64.9
良い成績を取りたいから	57.1
受験に必要なだから	57.0
普段の生活や社会に出て役立つから	44.9
他の人の役に立ちたいから	20.2
分からないことを知りたいから	19.7
家の人に勉強するように言われるから	17.3
家の人があはめてくれたり、喜んでくれたりするから	12.5
地域社会の発展のために役立ちたいから	6.6
先生があはめてくれたり、喜んでくれたりするから	5.4
世界や国の発展のために役立ちたいから	4.0
テレビや本で紹介されるような人になりたいから	2.2
未記入・誤記入	1.5

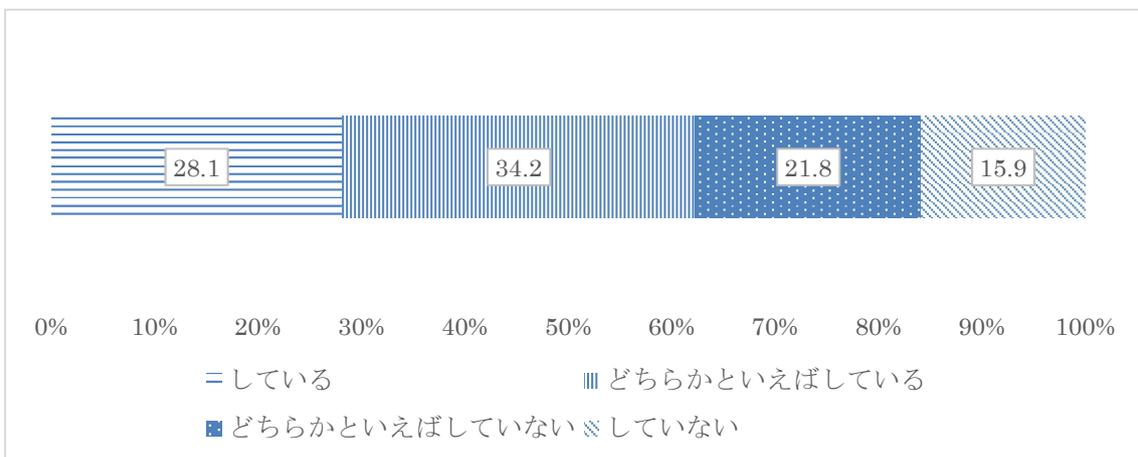
Q 2. 平日（月曜日から金曜日）、学校の授業以外に、1日にだいたいどれくらいの時間、勉強をしていますか（塾等での勉強時間を含みます）。



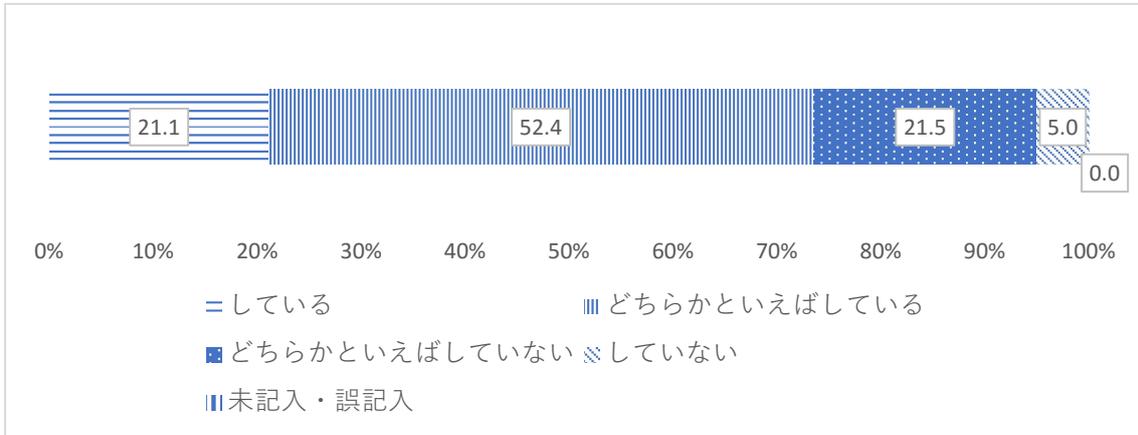
Q 3. 土曜日、日曜日、休日は、1日にだいたいどれくらいの時間、勉強をしていますか（塾等での勉強時間を含みます）。



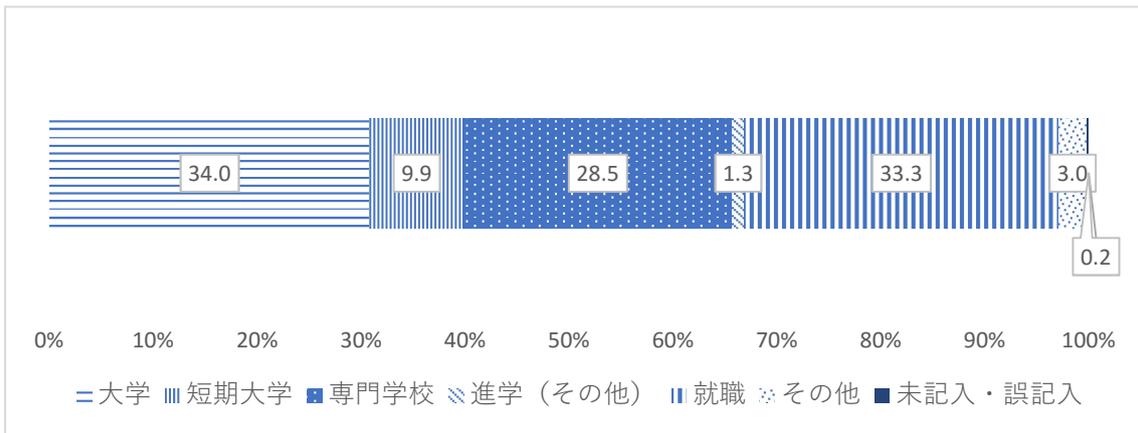
Q 4. あなたは、日ごろどのような方法で勉強をしていますか。「予習や復習（宿題を含む）をする」について、最も当てはまるものを1つ選んでください。



Q 5. あなたは、日ごろの学習や生活の中で、どのように考えたり、行動したりしようとしていますか。「分からないときでもあきらめずに考えようとする」について、最も当てはまるものを1つ選んでください。

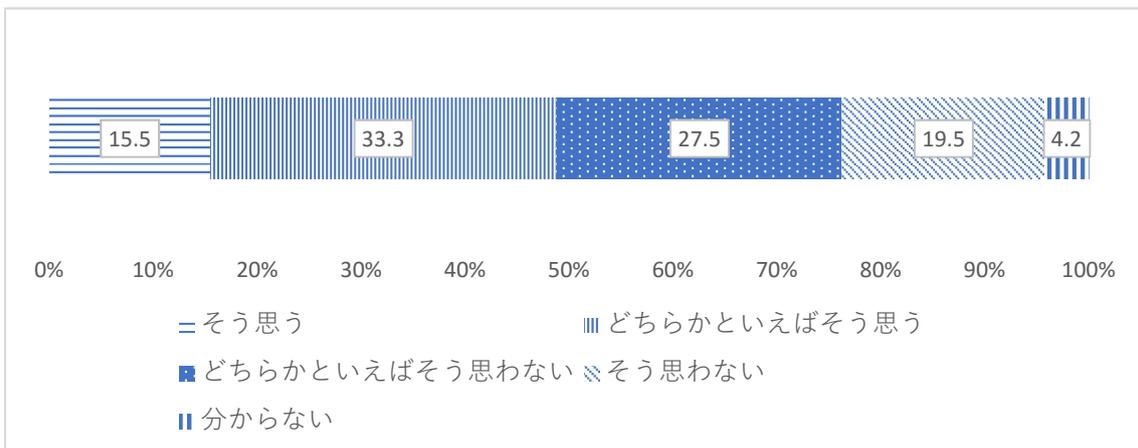


Q 6. 高等学校卒業後、あなたの希望する進路は、次のどれですか。当てはまるものを1つ選んでください。ただし、就職し進学もする場合などは、それぞれの該当するものを選んでください。

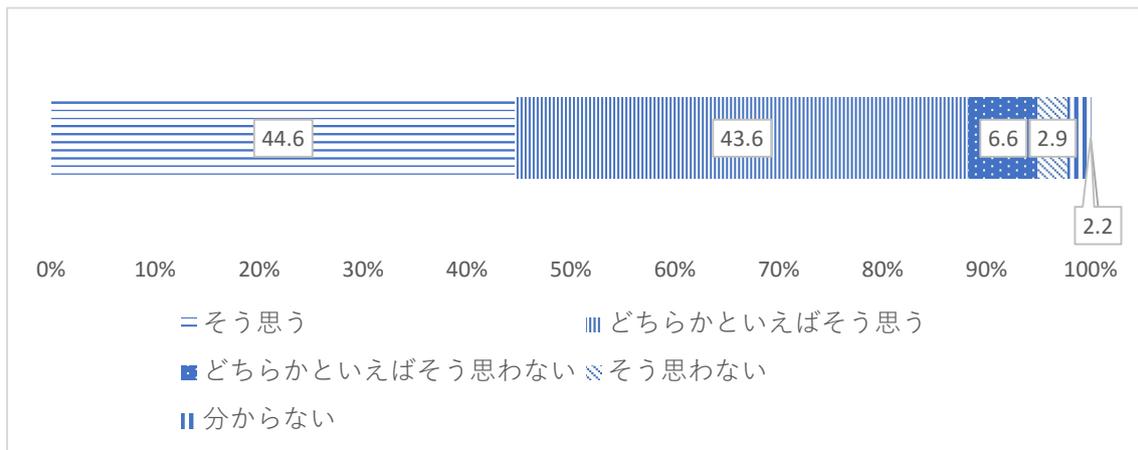


【国語総合】

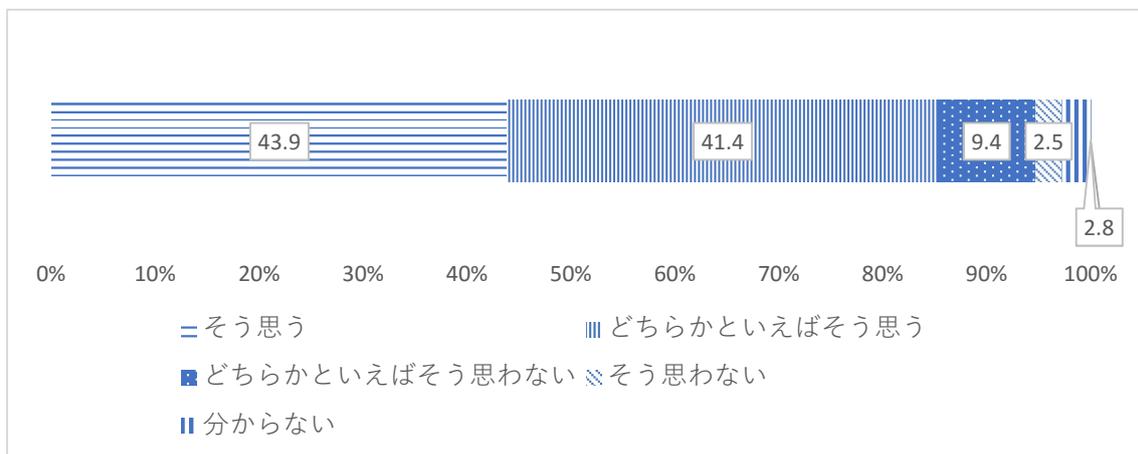
Q 7. 国語の学習が好きだ。



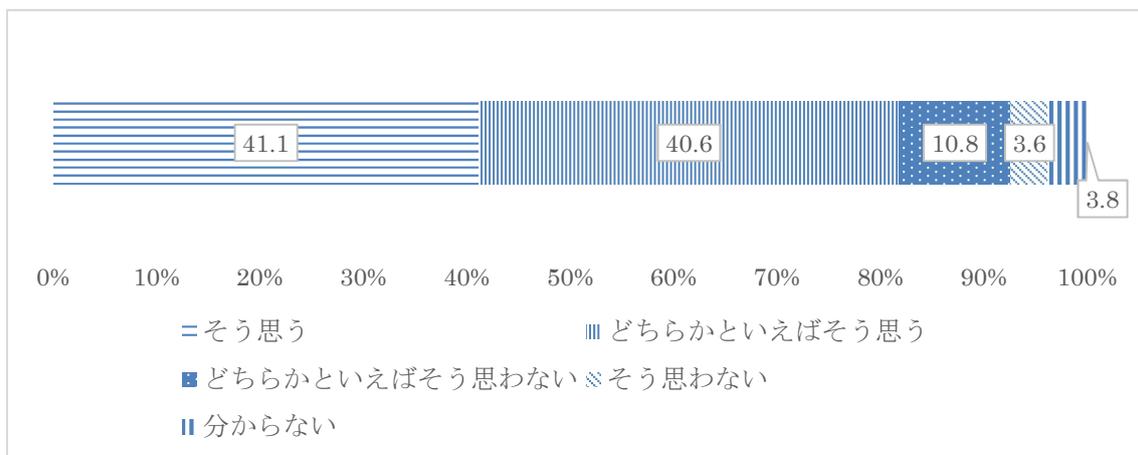
Q 8. 国語の学習は大切だ。



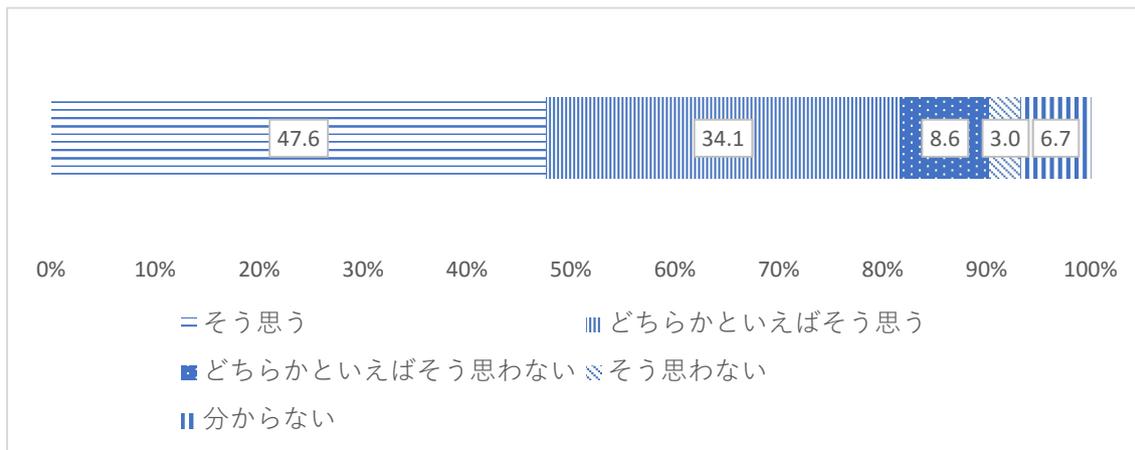
Q 9. 国語の学習をすれば、普段の生活や社会に出て役立つ。



Q 10. 国語の学習は、入学試験や就職試験に関係なくとも大切だ。

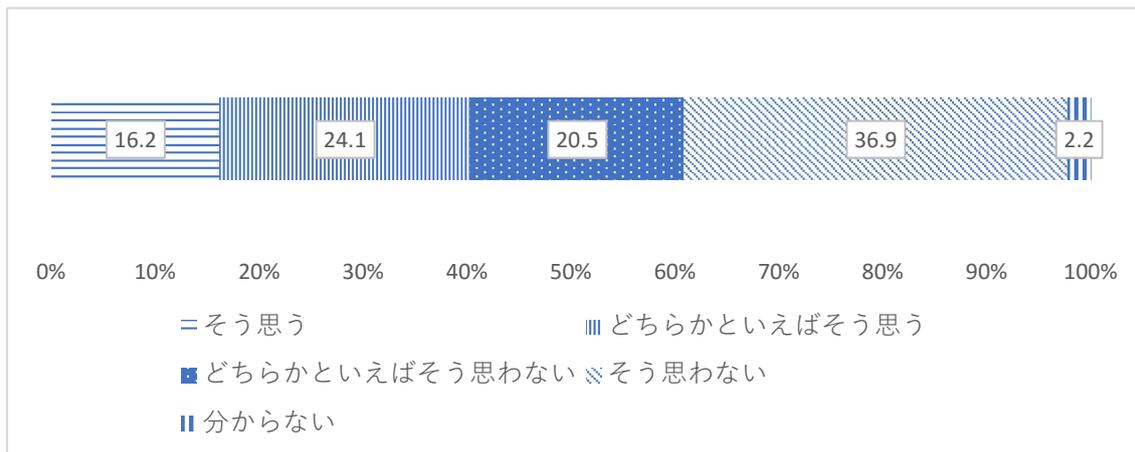


Q 1 1. 国語の学習をすれば、私の入学試験や就職試験に役立つ

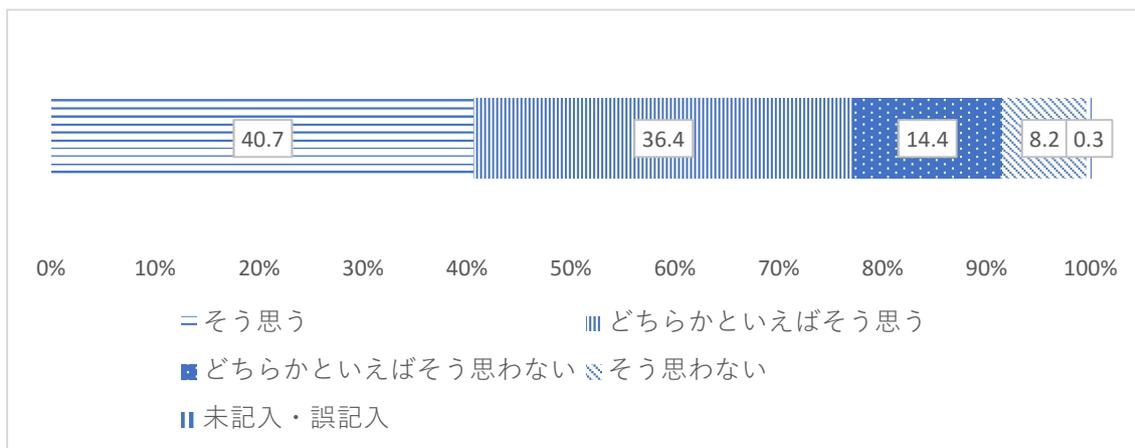


【数学 I】

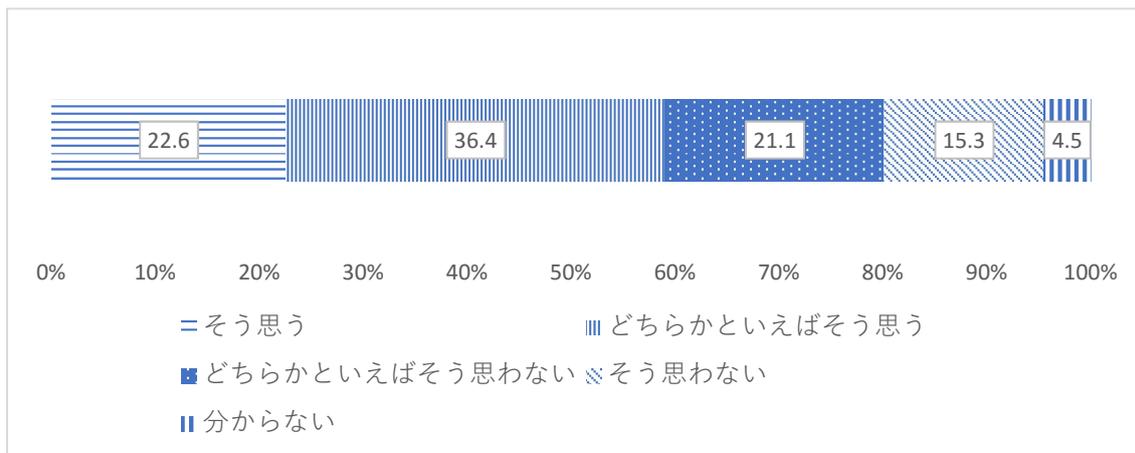
Q 1 2. 数学の学習が好きだ。



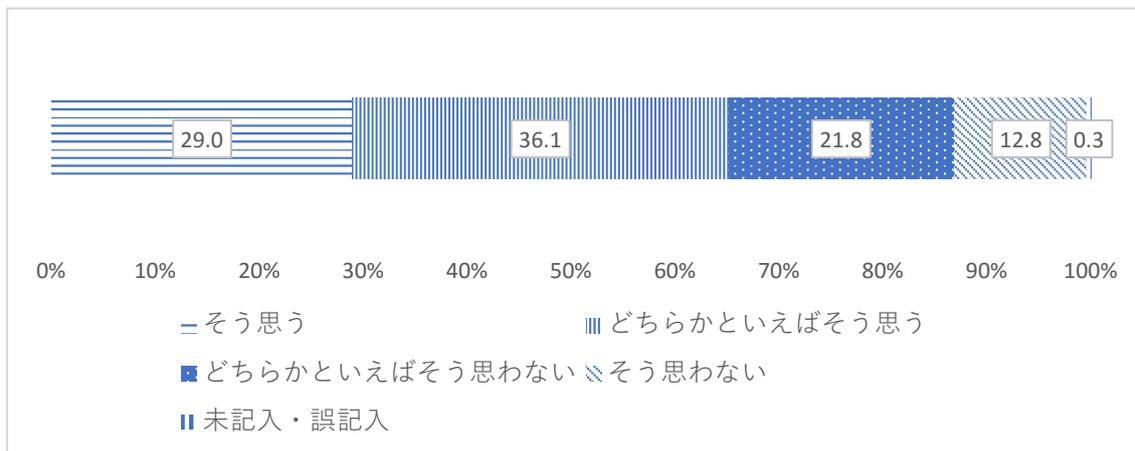
Q 1 3. 数学の学習は大切だと思いますか。



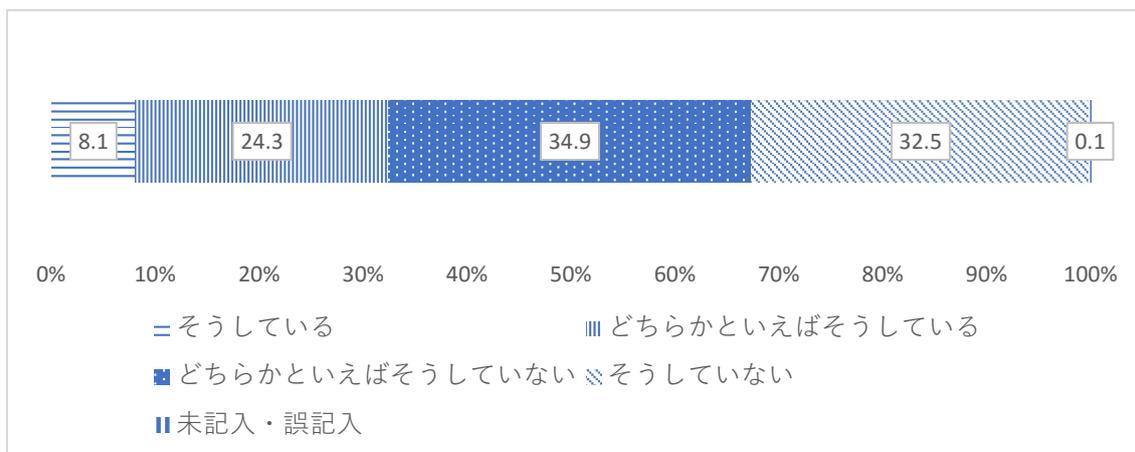
Q 1 4. 数学の学習をすれば、普段の生活や社会に出て役立つ。



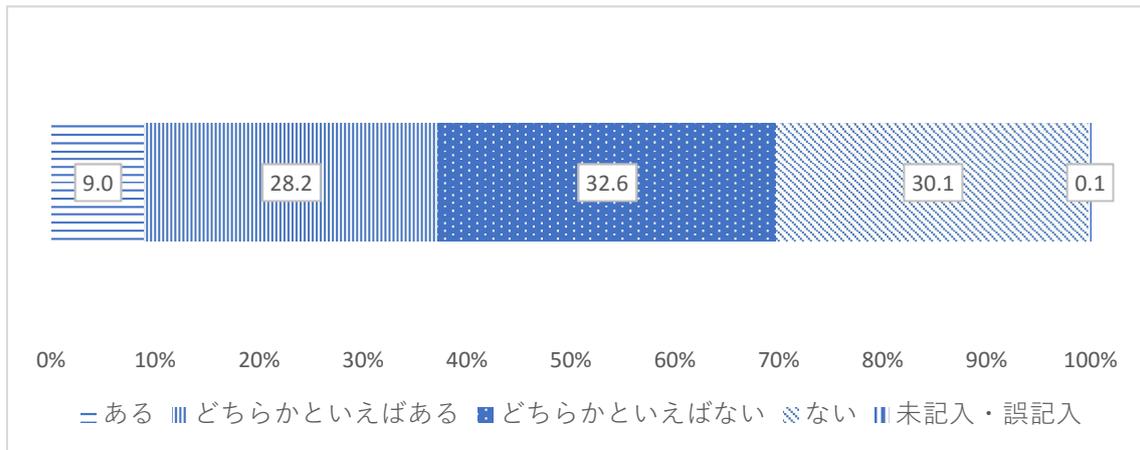
Q 1 5. 数学の学習は、受験に関係なくとも大切だと思いますか。



Q 1 6. 数学で学習したことを、日常生活や他教科の学習で使おうとしていますか。

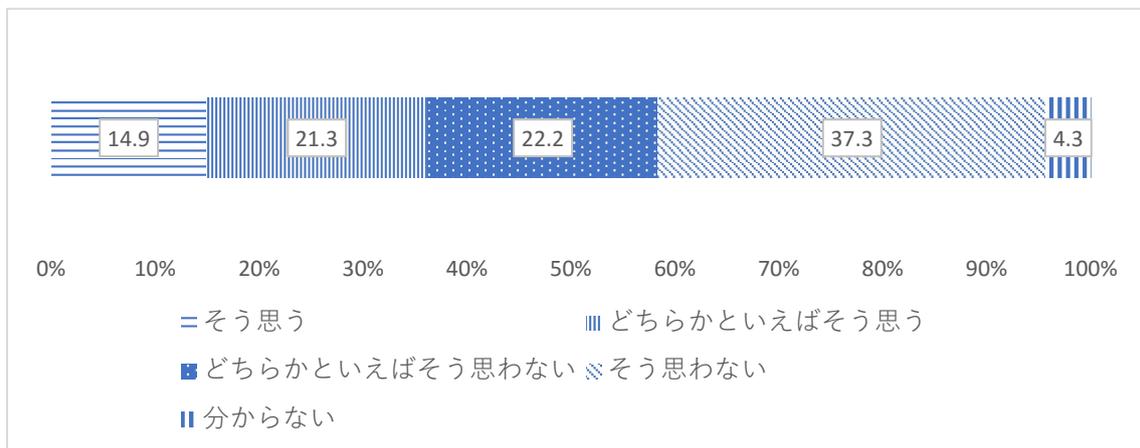


Q 1 7. 数学の授業で、数学の知識や技能を日常生活や社会の場面に利用することがありますか。

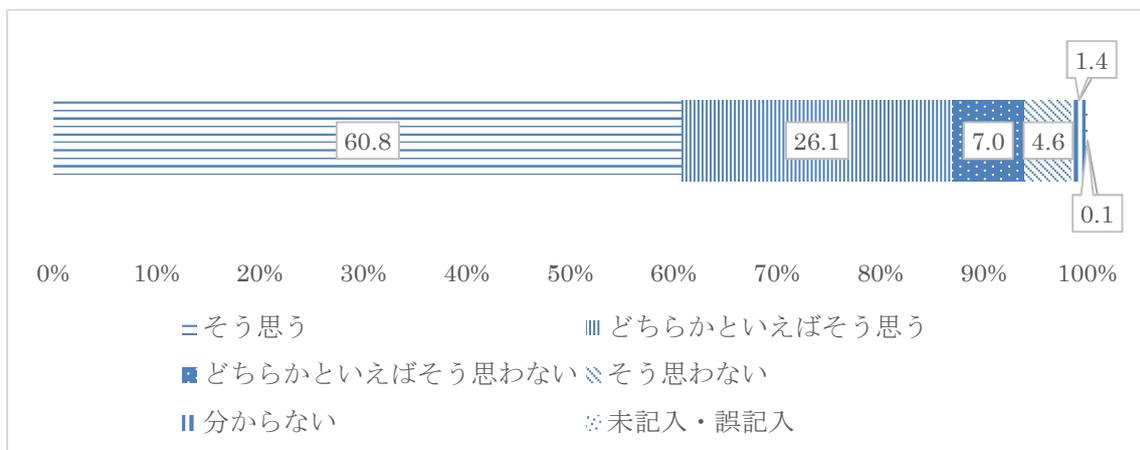


【コミュニケーション英語 I】

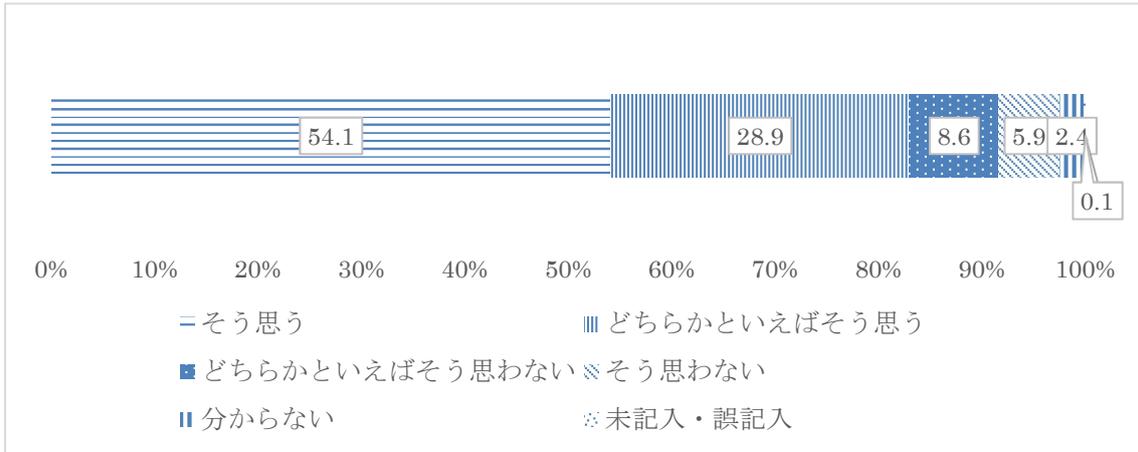
Q 1 8. 「コミュニケーション英語 I」の学習が好きだ。



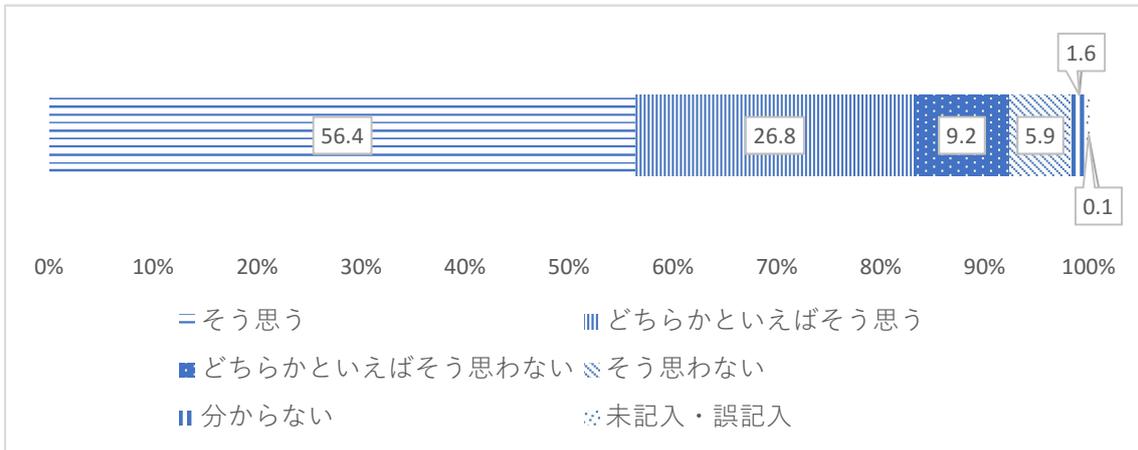
Q 1 9. 英語の学習は大切だ。



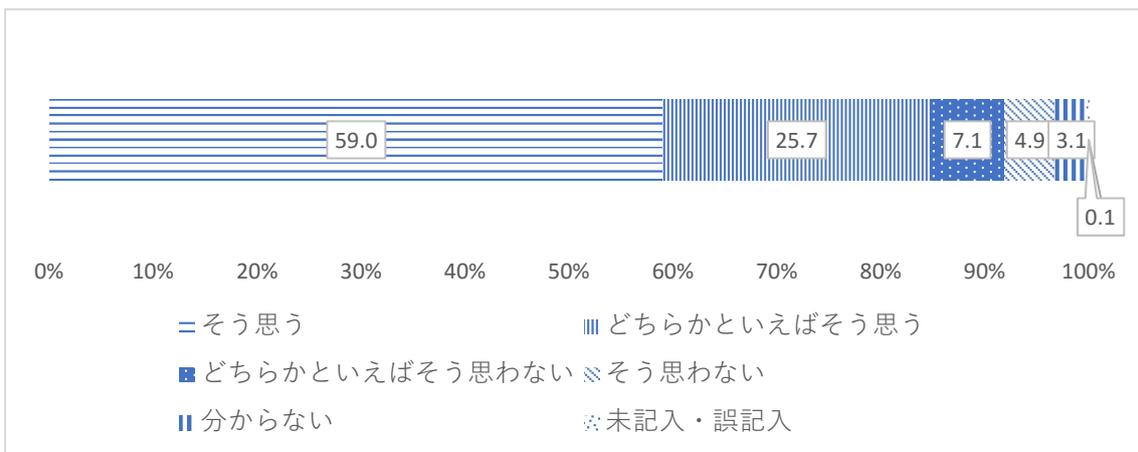
Q 2 0 . 英語の学習をすれば、普段の生活や社会に出て役立つ。



Q 2 1 . 英語の学習は、入学試験や就職試験に関係なくても大切だ。



Q 2 2 . 英語を学習すれば、入学試験や就職試験に役立つ。



平成29年度「高校生のための学びの基礎診断」に関する試行調査・研究事業概要

1. 本体調査における出題の枠組み

各事業者の企画提案書・事業計画書等に基づき作成（今後、変更が生じる場合がある）。

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容	
A	国語	国語総合 ※義務教育段階の内容を含める	50分	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型問題（想定された場面において相手や目的に応じて適切に表現する）など 与えられた情報をもとに論理構成を考えてまとめるなど40字程度や80字程度などの記述式（一部選択式を含む） 20字程度の見出しにまとめる、与えられた条件に沿って120字程度で自分の考えを書くなどの記述式（一部選択式を含む）
				統合的応用問題	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活とのつながりを意識した設定において、高校生に求められる基礎的な国語の能力を確認する問題 テキストの全体又は部分を把握、精査・解釈して解答する問題（記述式、一部選択式含む）
	数学	数学Ⅰ ※義務教育段階の内容を含める	50分	数学に関する基礎的な知識・技能を活用して解く問題⇒「数と式」、「関数」、「図形」、「データの分析」（記述式。数値のみを答える問題や選択式も一部含む）	
				統合的応用問題	数学と生活を関連づけ、数学的方法によって課題を解決する場面を設定し、高校生に求められる数学の基礎的な能力を確認する問題（記述式。数値のみを答える問題や選択式も一部含む）
	英語	コミュニケーション英語Ⅰ ※義務教育段階の内容を含める (レベル: CEFR A1~A2)	65分	聞くこと (16分)	イラスト説明問題、会話応答問題、要点理解問題、課題解決型問題など（すべて選択式） ※リスニングCDによる実施を想定。
				読むこと (24分)	情報検索・概要把握問題、要点理解問題、課題解決型問題など（すべて選択式）
				書くこと (10分)	状況描写問題、意見陳述型問題など（すべて記述式）
				話すこと (15分)*	応答問題、音読問題、意見陳述型問題など（すべて口述式） ※タブレットを用いたC B T形式とする。

* 英語（話すこと）の15分は、解答の準備等を含めた実施時間。実際に受検者が英語に向き合う時間は10分程度を想定。

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容	
B	国語	国語総合 ※義務教育段階の内容を含める	50分	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型問題（想定された場面において相手や目的に応じて適切に表現する）など 与えられた情報をもとに論理構成を考えてまとめるなど40字程度や80字程度などの記述式（一部選択式を含む） 20字程度の見出しにまとめる、与えられた条件に沿って120字程度で自分の考えを書くなどの記述式（一部選択式を含む）
				統合的応用問題	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活とのつながりを意識した設定において、高校生に求められる基礎的な国語の能力を確認する問題 テキストの全体又は部分を把握、精査・解釈して解答する問題（記述式、一部選択式含む）

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容	
C	数学	数学Ⅰ ※義務教育段階の内容を含める	50分	数学に関する基礎的な知識・技能を活用して解く問題⇒「数と式」、「図形と計量」、「二次関数」、「データの分析」の内容について活用する問題（解答は記述式。必要に応じて選択式も一部含む）	
				統合的応用問題	数学と生活を関連づけ、数学的方法によって課題を解決する場面を設定し、高校生に求められる数学の基礎的な能力を確認する問題（解答は記述式。必要に応じて選択式も一部含む）

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容	
D	英語	コミュニケーション英語Ⅰ ※義務教育段階の内容を含める (CEFRのA1～A2レベルを目安)	70分	聞くこと (15分)	多肢選択式 ※リスニングCDによる実施を想定。
				読むこと (20分)	多肢選択式
				書くこと (15分)	記述式
				話すこと (20分)	<p>予め録音された質問に対して解答をデジタル端末機に吹き込むCBT方式</p> <p>※実践研究校に設置されたPCの利用及び委託事業者から実践研究校へのPC（タブレット端末を含む）の貸与を検討する。</p>

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容		解答方式
E	国語	国語総合を上限	50分	「知識・技能」を問う問題(約7割)、 「思考力・判断力・表現力等」を問う問題(約3割)を目安に作問 ※義務教育段階の内容を含める	・「話すこと・聞くこと」 ⇒【大問1題(設問2~3程度)】 ・「書くこと」 ⇒【大問1題(設問2~3程度)】 ・「読むこと」 ⇒【大問2題(設問5~6程度)】 ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」⇒【設問6題】 ・「統合的応用問題」 ⇒【大問1題(設問2~3程度)】 ※設問レベルで計20題を上限	C B T方式により、選択式、記述式から必要な方法で出題
	数学	数学Ⅰを上限	50分		・基礎的な知識・技能について確認する問題⇒【10問程度】 ・数学に関する基礎的な知識・技能を活用して解く問題⇒【4問程度】 ・統合的応用問題⇒【1問程度】 を目安に出題	
	英語	コミュニケーション英語Ⅰを上限	50分	「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3技能を調査対象とする。 (CEFRのA1~A2レベルを目安) ※義務教育段階の内容を含める		

※C B T方式調査においては、実践研究校のコンピュータ教室等のPCを用いて、同校のインターネット環境等を踏まえて、オンライン又はUSBメモリ等の外部記憶媒体を用いた方法を試行する。

2. 本体調査問題の難易度及び作成セット数

問題レベル	事業ごとの作問数	
	事業A~D	事業E(CBT調査)
高等学校段階の内容を中心とした問題セット(標準レベル)	3セット	1セット
義務教育段階の内容を半数程度盛り込んだ問題セット(基本レベル)	3セット	1セット

※実践研究校は、学校ごとにいずれか一つの問題レベルを選択のうえ受検する。

3. アンケート調査

アンケートの種類	対象	概要	アンケートの形式	備考
①アンケート調査(共通)	生徒	生徒の学校内外での学習状況、生活の諸側面等	紙(マークシート等)	アンケート項目は平成28年度試行調査と同様もしくはこれをベースに検討
	学校	生徒の状況、学校での授業・補習等の指導状況、PDCAサイクルの具体的な取組状況等	紙(紙もしくは、web上での入力を検討)	
②本体調査に関する事後アンケート調査	生徒	問題の難易度、解答時間の適否、感想等	紙(記述以外はマークシート等)	アンケート項目は本体調査に対応した教科について、受託事業者が作成
	学校	問題の内容等に関する所見等	紙(事業者によっては、紙もしくは、web上での入力を検討)	

※各受託事業者においては、アンケート調査に加えて、一部の学校を抽出の上、同校教員及び生徒の協力を得てインタビューを行うことにより、調査の充実を図る予定。